

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市都市計画審議会小委員会(第8回)				
事務局 (担当課)		まちづくり計画部 都市計画課 電話042-769-8247(直通)				
開催日時		平成31年3月18日(月) 午前10時00分~11時30分				
開催場所		相模原市民会館2階第2中会議室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	13人 (都市建設局長、まちづくり計画部長、都市計画課長、他10人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定について				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言)

本日の小委員会では、都市計画マスタープランについては、土地利用の方針や都市づくりの各分野の方針のほか、観光の視点を細かく入れているがどうか。立地適正化計画については、都市機能誘導区域や居住誘導区域の設定基準、居住誘導区域の設定案としての自転車ネットワークの視点などをどう考えるか等を中心に議論いただきたい。

### 1 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定について

事務局から資料説明を行った後、質疑を行った。

○歴史や文化を生かした景観づくりは、もう少し具体的にイメージしやすくなった方が良い。

北里・金原の周辺は、現在の案では誘導区域になっていないが、国の考え方とは少し違った観点で考えた方がよい。拠点が特徴を持っていた方が存続性は高まると思う。その観点で北里を考えると、「周囲に自然があり治療に専念できる拠点」としての誘導など特徴をもった地域とした方が良い。

○まちのイメージのイラストは前回からどの辺りが変わったか？

イラストの全体的なトーンがバラバラだったため統一を図り、より実態に沿った内容になるよう修正した。

○相模原市独自の考え方で自転車利用圏域の考え方を取り入れているが、これによって居住誘導区域がどのくらい拡大しているのか？

古淵駅と相模大野駅に挟まれたエリアや、境川沿いなどの人口密度80人/ha程度ある箇所が誘導区域に含まれてくる。実際の市街化の状況にも一致しており、自転車利用を考慮することも考えられる。

○山の名称を新たに追加してもらっているが、周辺自治体も含めたつながりが表現された図になっていた方が良い。

災害の問題は、どこで判断基準になる線を引くのが重要となる。他都市においても、地域の実情に応じて、災害危険性のある箇所を誘導区域に含めているが、過去の災害なども勘案して被害の大小で考える必要がある。

広島市などは、市街地の広い範囲が災害危険性のある区域になっており、誘導区域から除外すると住む場所が極端に限られてしまうことなどを踏まえて、誘導区域に含めている。相模原市は、災害危険性のある区域を誘導区域から除外しても、市全体での市街地面積で見ると都市が成り立たなくなる状況ではない。

○観光地は、地域で長い年月かけて一生懸命つくることで出来るものである。

## 審 議 経 過

そのような取組をやってくれる場所を考えていくと良い資源が生まれてくると思う。○これまでの10年間に比べ、これからの10年間は時代が変化するスピードも速くなっていく。今後の都市づくりは、これまで横浜・川崎市がやってきたような方法ではないものがある必要があり、柔軟に対応できる余地がある都市構造でなければいけないと思っている。

ハザードマップは現在分かっている情報で考えられたもので、今後未知な部分がある。捉え方次第の部分があり、ハザードマップを基に誘導区域を決めていくような強権的な方法も考えられる。

○イラストの中に高齢者が見当たらないのは気になる。観光は市外からの人を呼び込むことに力点が置かれているが、市民意見を見ると市内での行き来が述べられており、うまく取り込むべきである。

また、移動サービスが人の生活を構成する要素として無視できない時代になっており、立地条件に移動サービスも含めて考慮しないと現実味がなくなってしまう。

○土地利用の整序は、立地適正化に取り組む中でどのように考えているか？

都市計画マスタープランを改定する際に、新たなものを追加するだけでなく、削除することも考えるべき時代である。また、時間軸の考え方も取り入れるべきである。

また、自転車利用圏域は、平坦な地形なので誘導区域の設定基準に含めて良いと考える。

なお、災害ハザードは、本来は誘導区域から除外すべきだが、防災の専門家の視点を入れ、詳細な調査を実施してから判断した方が良い。

土地利用の整序は、市街化調整区域や用途地域未指定箇所の集落がある箇所を位置付けている。

○居住誘導区域外は、緑住集落地区で拾われていると考えて良いか。

イラストに描かれているまちは、新しくつくられた新市街地の雰囲気とする。リノベーションされた古民家や、電柱などを描いていくと、今あるまちなりの雰囲気になると思う。

自転車利用圏域は、誘導区域の設定基準に入っていて良いが、自転車で移動しやすい環境づくりと整合させていかなければならない。誘導区域に設定された各場所について、どのような理由で区域に含まれているのかを示しても良い。

また、まちづくりセンターの機能は、拡充を考えなくて良いか？計画のPDCAと各まちづくりセンターの取組をリンクさせられれば、より効果的な取組になり、運用もしやすくなる。

○市内に住んでいてもイチゴ狩りに行くといった観光が考えられるので、そうした地区の創出があっても良い。一方、駐車場の確保については課題である。避難・救助のための空間の機能向上については、農地を活用する視点も含めてほしい。

災害ハザードは大変難しい問題のため、頂いた意見を踏まえると、もう少し詳細に調べる必要があると考えている。自転車利用圏域についても、誘導区域に含められる場所なのか詳しく調べていきたい。また、観光の視点については、外からの観光のみでなく、市内間連携についても整理していきたい。

以上

## 相模原市都市計画審議会小委員会(第8回)委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科 教授		出席
2	伊藤 彰英	麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 教授		出席
3	加藤 仁美	東海大学 工学部 建築学科 教授	副委員長	出席
4	西浦 定継	明星大学 理工学部 総合理工学科 教授	委員長	出席
5	保井 美樹	法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授		出席
6	高橋 三行	相模原市農業委員会 会長		出席
7	落合 幸男	相模原市農業協同組合専務理事		出席
8	座間 進	相模原商工会議所専務理事		欠席
9	大塚 亮一	公益社団法人神奈川県 宅地建物取引業協会 副会長		出席
10	澤岡 詩野	ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員		出席
11	中西 泰子	相模女子大学 人間社会学部 社会マネジメント学科 准教授		欠席